

平成 2 1 年度足利市公営企業会計決算審査意見

第 1 審査の対象

平成 2 1 年度足利市水道事業会計決算
平成 2 1 年度足利市工業用水道事業会計決算

第 2 審査の期間

平成 2 2 年 6 月 7 日から平成 2 2 年 6 月 2 8 日まで

第 3 審査の方法

審査にあたっては、市長から審査に付された決算報告書、財務諸表及び決算附属書類が地方公営企業法に準拠して作成され、これらの書類が本年度の事業の経営成績及び財政状態を適正に表示しているか、決算書の計数に誤りはないか、会計帳簿、証拠書類と照合し適正であるかなど、必要とされる審査を行ったほか、事業の経営内容を把握するための計数の分析を行い、また、これらを補足するため関係職員の説明を聴取して実施しました。

第 4 審査の結果

審査に付された水道事業会計・工業用水道事業会計の決算報告書、財務諸表及び決算附属書類は、いずれも地方公営企業法及び関係法令に準拠して作成され、その執行は適正であり、計数は経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められました。

概 況

平成 2 0 年 9 月のリーマン・ショックに端を発した世界的な金融危機の中で、輸出の急激な落ち込みに伴って急速な景気悪化へ進んでいた日本経済は、平成 2 1 年春になってようやく最悪期を脱しましたが、その後の経済活動の水準は低く、雇用不安や所得格差に対する懸念が大きな社会問題となりました。

本市においては、輸出に依存する産業の割合が小さいものの経済活動は厳しく、景気後退により縮小した需要を奪い合う市場原理の中にあります。

水需要を取り巻く環境も、景気の低迷や人口の減少、そして環境意識の高まりによる節水思想の普及などにより、ますます厳しい状況にあります。

このような中であって、公営企業会計においては、水道事業会計の当年度純利益が 198,342 千円（前年度比 6,338 千円 3.3% 増加）、工業用水道事業会計では、39,073 千円（前年度比 8,355 千円 27.2% 増加）の計上となりました。

水道事業会計における給水原価は、前年度に比べて減少し、引き続き供給単価を下回った結果、財政運営は一応安定しているといえます。一方、工業用水道事業会計も総体的には、堅調に経営が行われたものと認められました。

本市の水道料金は、周辺都市と比較して著しく低額ですが、水道事業の執行に当たっては、今後も最少費用による最大効果を常に念頭に置き、厳しい経済社会の動向を的確に把握して、事業の必要性、経済性、効率性、有効性を重視した健全な財政運営を進めるよう更なる努力を要望します。

(注) 1 本文中及び表中の金額は、原則として千円単位とし、千円未満を四捨五入しました。このため、合計額と内訳の計が一致しない場合があります、各比率も同様です。

また、合計額及び内訳の数値が、個別の四捨五入、決算書と一致しない場合があります。

なお、各表中において、当該数値がないものを「－」としました。

2 ポイントとは、パーセンテージを比較した場合の単純差引数値です。

3 表中の全国平均は、総務省自治財政局編集による「地方公営企業年鑑」の給水人口15万人以上30万人未満の事業体の平成20年度における数値です。

4 消費税とは、消費税及び地方消費税です。

なお、関係箇所の項目ごとに（消費税込）・（消費税抜）の表示をしました。